



気持ちで負けるな、一人一人が全力を出し切った。

— 令和5年度市郡総合体育大会 —

6月1日(水)からの陸上競技を皮切りに、2週間にわたり令和5年度の市郡総合体育大会が開催されました。生徒はこれまでの練習成果をもとに、持てる力を十分に発揮して活躍していました。点差は開いているけれど、最後まであきらめずにゴールをねらう姿。剣道では上級生との試合で、後ろに下がることなく前に前に打ち込もうとする姿。野球で終盤逆転を許してしまったが、「まだまだいけるぞ」と声を一層掛け合って鼓舞し合う姿。試合が終わればノーサイド。自分たちも頑張ったが、相手の頑張りにも賞賛し合う姿など。一つのことにも全力で打ち込む姿は、とても美しいなあと感動することでした。県大会へ駒を進めた人たちは、さらに自分を磨き、チームワークにも磨きをかけていってください。

<市郡総合体育大会の成績> 下線は県大会出場

陸上部 男子低学年100mハードル 第1位 2年 中森 楽稀

1年女子800m 第2位 1年 上村 鈴音

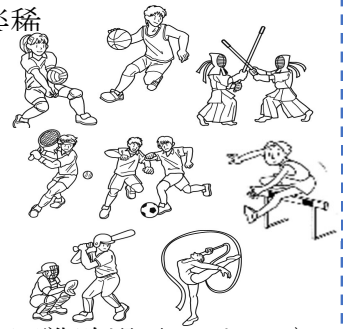
2年女子800m 第4位 2年 山口 華衣里

女子共通1,500m 第6位 2年 山口 華衣里

男子共通走幅跳 第2位 3年 森田 梨楠

女子共通走幅跳 第4位 3年 堀切 琳心

男子共通砲丸投げ 第6位 2年 大漉 諒人



野球部 2回戦敗退

男子バスケットボール部 2回戦敗退順位決定戦トーナメント1回戦敗退(ベスト16)

女子バスケットボール部 1回戦敗退

男子バレーボール部 予選敗退 **女子バレーボール部** 予選敗退

サッカー部 決勝トーナメント1回戦敗退

男子ソフトテニス部 団体 2回戦敗退

個人戦 3年 福元直希・福田大翔 3回戦敗退

3年 田代瑛大・平山大智 3回戦敗退

女子ソフトテニス部 団体 2回戦敗退

バドミントン部 男子共通シングルス 第2位 3年 橋口 寛史

女子共通ダブルス 第3位 3年 政 優楽 竹中 実々花

女子1・2年シングルス 第1位 2年 六反田 優音

女子団体総合 第3位

※ バドミントン競技は、市郡総体参加選手がすべて県大会に出場します。

剣道部 男子団体 予選敗退 女子団体 第3位

※ 個人戦でベスト8に入った生徒は県大会に出場します。

2年 瀧村 愛翔 3年 原田 百々花 2年 川畑 仁妃愛

水泳 男子100m背泳ぎ 第1位 3年 有田 悠希

男子200m背泳ぎ 第1位 3年 有田 悠希 (大会新記録 2分12秒19)

女子200m背泳ぎ 第3位 3年 芝崎 楽

男子400m自由形 第3位 2年 山下 大地

空手道 男子団体組手 第1位 心道館 中森 大志

男子団体形 第3位 心道館 中森 大志

硬式テニス 1年 藤山 咲太郎 4回戦敗退 ※ 硬式テニスは県大会にも出場します。

生徒の活躍（市郡総体以外）

- 第40回南日本中学生陸上競技大会
男子1・2年100mハードル 第1位 2年 中森 楽稀
男子共通走幅跳 第3位 3年 森田 梨楠
女子共通走幅跳 第6位 3年 堀切 琳心
男子共通円盤投 第5位 2年 大漣 諒人
最優秀選手賞 2年 中森 楽稀
- 第49回県中学校春季学年別水泳競技大会
男子中学3年100m背泳ぎ 第1位 3年 有田 悠希
男子中学3年200m背泳ぎ 第1位 3年 有田 悠希
- 歯と口の健康週間図画・ポスター・標語作品展 入選 2年 今村 唯愛

7月の主な行事

「SC来校」はスクールカウンセラーが来校する日です。

日	曜	行事	日	曜	行事	日	曜	行事
1	土	週休日	11	火	学校納金日[1年] 市SC来校(終日)	21	金	夏季休業日(～8/31木) 県SC来校(午後)
2	日	週休日	12	水	交通安全教室(1年5T、2・3年6T) 学校納金日[2年] 生徒会第1回選挙管理委員会	22	土	週休日 県中学校総合体育大会(～29金)
3	月	職員会議(授業は5校時まで)	13	木	生徒会学校専門部会(放課後) 学校納金日[3年]	23	日	週休日
4	火	PTA三役会(19:00～) 市SC来校(終日)	14	金	学校納金日[予備日]	24	月	
5	水	第1回学校保健委員会(15:00～)	15	土	週休日	25	火	第67回市中学校生徒弁論大会
6	木	安心安全教育(インターネットの安全な利用等)5～6校時	16	日	週休日	26	水	
7	金	2年生授業参観(5T)学級PTA ※部活動中止	17	月	(祝)海の日	27	木	
8	土	土曜授業 1年親子学習・1年学級PTA ストレスマネジメント教室[3年] 進路説明会[3年]・3年学年PTA	18	火	消費者教育講演会[3年生徒・全学年保護者](15:15～体育館)	28	金	
9	日	週休日	19	水		29	土	週休日 吉野地区PTA7校合同懇親会
10	月	職員研修(給食後下校)	20	木	終業式・大掃除 県総体壮行会	30	日	週休日
						31	月	

6月27日(火)から期末テストが始まります。

1年生にとっては初めての定期テストです。8教科あります(技術・家庭はありません)。1日は24時間、そのうち平日家庭で過ごす時間は12時間。そこから睡眠時間を7時間(睡眠は勉強したことを定着させるためにも必要です。)として、残り5時間。そこから食事や入浴の時間を引くと3時間半。テスト期間といっても、残り金、土、日、月。週休日を使っても1教科に何時間かけられるのでしょうか。そう考えるとゲームやYouTubeを視聴している時間はありません。**計画的に集中して取り組まないといけません。**自分で学習の仕方を工夫することも大事です。まずは、**教科書をしっかりと読む**。教科書はよく情報が整理されています。テスト範囲をしっかりと読み返してみましよう。教科書にある二次元バーコードから動画や資料も見てみましょう。また、授業のノートやプリントを見返す、練習問題や類似問題を解くなど、できる限りのことを精いっぱい取り組みましよう。テスト当日は時間いっぱい考え、無答をなくましよう。

令和5年度教育講演会 「寺山炭窯跡の災害と復旧」

令和5年6月10日の第2土曜日、強い雨が降る中、教育講演会を開催しました。今回の講師は、鹿児島市教育委員会文化財課世界遺産保全係主査の藤井大祐さんをお願いしました。藤井さんは、寺山炭窯跡の復旧に中心となって取り組んでおられる方です。演題は、「寺山炭窯跡の災害と復旧 ―世界遺産を地域づくりの拠点に―」でした。寺山炭窯跡は、島津斉彬が日本の近代化を進めるために西洋式工場群を整備した集成館事業の重要な関連史跡の一つで、2015年に「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の構成資産として、世界文化遺産に登録されました。2019年夏の大雨でほぼ全壊し、今年3月17日に復旧工事を終え、再公開に向けて準備をしていたところ、再び崩落してしまいました。その時、本校の生徒有志でつくるボランティアガイドのグループから励ましの手紙を受取り、大変感動され、今回の講演につながりました。私たちの校区内にある世界遺産の復旧に向けて日夜情熱を傾けていらっしゃる、その思いや藤井さんの考古学との出会い、魅力を語っていただくことで、生徒のキャリア意識を高め進路の参考にもしてほしいと考えたところです。寺山炭窯跡の現在の状況についてとても詳しく丁寧に説明していただきました。印象に残った言葉は「リビング・ヘリテージ（生きている遺産）」という言葉です。2度の崩落は大変残念ですが、そのことを通じて、かかわってくださる地元の方々が増えて、みんなの遺産になってきていることをうれしく思っているとのことでした。講演に先立って、ボランティアガイドグループ「オフィス兵六」の生徒たちによる炭窯跡についてのガイドも披露されました。今後1年生の寺山学習なども通じて、生徒・保護者、地域の方々に愛される遺産として復旧作業が進むことを願っています。



オフィス兵六によるガイド活動



負けるな
嘘をつくな
弱い者をいじめるな

他に負けずにがんばれと自分自身に言い聞かせながら努力せよ。だが、何よりも自分の心の中にある怠け心、弱い心に負けてはならないという自分自身への戒めを忘れるな。

そして、人間は嘘を言つてはいけない。嘘や偽りは人間として最も恥ずかしいことなのだ。

また、相手の立場を思い、弱い立場にある人への人間的な思いやりをしめしたまえ。昔から、郷土の先人たちはこのような生き方を教え、たとえば戦いのあとは敵味方なく戦没者の霊を供養してきた。短い言葉だが、命の尊さ、人間の尊さをずばり言い切っている。

解説 瀨里 忠宜 先生 ※

※ 故人 元鹿児島県教育委員会教育長。純心女子大学副学長、教授。

鹿児島では、人として絶対忘れてはならない大切なこととして、昔からこの教えを親から子へ、子から孫へと言い伝えてきました。あの西郷さんや大久保さんもこの教えを胸に、偉業を成し遂げたのです。どこかで聞いたことがあると思います。

そして、解説文は、今でも尊敬してやまない故、瀨里 忠宜先生のものであります。これまた、心にビンビンと響いてくる文章です。

私はかつて県庁で働いていたとき「語り継ぐ かがしまの教え集 少女少女へのメッセージ」という本をつくるという仕事をさせていただきました。その時、県民の皆様から、県内各地で言い伝えられている教えを募集し、有識者の方々に選定していただきながらまとめていったのですが、全体の監修をしてくださったのが瀨里先生でした。純心女子大学の先生のお部屋に通い、一つ一つの教えについて解説文を検討していただいたのですが、その時に先生から伺うお話がとても心に響き、今でもなんと素晴らしい時間であったかと懐かしく、忘れられない思い出です。このような教えや思い出を胸に、毎日を誠実に、過ごしていこうとしているところです。

さて、親は誰しも、自分の子供の幸せを一番に考え、健やかに成長し、充実した幸せな人生を送ってほしいと思っています。人間だれしも弱さを持っている。間違ったことをしてしまうこともある。けれどもその弱さに打ち克って、誠実に生きてほしいと願っている。時には、心を鬼にして、または諭すように子供に語り掛ける、何も言葉は発しないけれども後ろ姿で見せる、そういう存在でありたいと思っている。

琉球の教えに「ていんさぐぬ花や 爪先に染みてい 親のゆしぐとうや 肝に染みり (ほうせんかの花の汁は爪先を染めて 親の教えは心にしみ込ませなさい)」という教えがあります。親の言葉は、いつまでも子供の心にしみ込んで生きて行く上での心の座標軸となるものです。

今年も、PTAの事業の一つとして、各御家庭の家訓(おしえ)を集めて紹介する「一家庭 一家訓」の募集を行います。県内にも昔から言い伝えられている、いろんな教えがありますので、オリジナルの言葉でも構わないし、昔から言い伝えられている教えを家訓としてあげても構いません。ふるって応募してください。

そして、これを機会にそれぞれの御家庭で、親子で心の座標軸となる教えや言葉を確認し合っていただければと思います。

急激に身体が成長し、いろいろな場面で悩み、ふらつくときもある中学生、思春期です。毎日を、笑顔で、元気に過ごせるように、学校、保護者、地域が一つになって、子供たちを見つめ、思いを巡らし、向き合って育んでまいりましょう。